

いぬなし青葉

令和4年9月14日

第12号

校長 山下英樹

前号に引き続き、全国学力・学習状況調査（以下、全国学調）、みえスタディチェック（以下、みえスタ）生活実態調査の結果や結果から見てきたものをお知らせします。

学習習慣について

- 全国学調および生活実態調査から学習習慣についての設問に対する回答は次のようになりました。
- 平日および休日の1日当たりの学習時間（単位 % 3年生は本校/全国）

【表5】		3時間以上	2～3時間	1～2時間	0～1時間	全くしない
平日、1日当たり、どれくらいの時間、勉強するか（塾等を含む）	1年	4	14	32	45	7
	2年	3	8	32	47	10
	3年	7.9/9.9	25.4/25.3	37.9/34.3	26.5/25.5	2.3/4.9
休日、1日当たり、どれくらいの時間、勉強するか（塾等を含む）	1年	9	17	28	32	15
	2年	4	17	33	31	14
	3年	16.9/20.6	18.6/24.3	22.6/25.9	26.0/19.0	15.3/10.2

- 【表5】から分かるように、平日の家庭学習の時間は3年生では全国平均値と同程度ですが、1・2年生の家庭学習の時間はかなり短いと言えます。これまでの生活実態調査の結果から、この傾向はここ数年続いており、1・2年時の平日の家庭学習の時間を増やすことが、学力向上につながる大きな一手であると考えられます。
- 休日の学習時間はどの学年も短いと言えます。加えて、どの学年も15%程度の生徒が「全く勉強しない」と答えている点も、気になるところです。

【表6】		よくする	ときどきする	あまりしない	全くしない
家で自分で計画を立てて勉強しているか（予習や復習を含む）	1年	26	39	29	7
	2年	17	34	37	12
	3年	19.8/15.4	38.4/43.1	29.4/29.6	12.4/11.8

- 上の【表6】の計画的な家庭学習についての質問ですが、注目したい設問です。1年生は計画的に勉強をしていると答えている生徒は65%を超えていますが、2年生は51%、3年生は58%です。このような傾向（1年時は計画的に家庭学習を行っていた生徒の割合が、2年時には減少し、3年時に増加する）は、ここ数年続いています。下の【表7】は現3年生の1年時、2年時の回答です。

【表7】		よくする	ときどきする	あまりしない	全くしない
家で自分で計画を立てて勉強しているか（予習や復習を含む）	1年時	24	33	29	13
	2年時	13	29	38	20
	3年時	19.8/15.4	38.4/43.1	29.4/29.6	12.4/11.8

- 1年時に計画的な家庭学習を行っている生徒の割合が高い理由として、「小学校の指導により宿題を行う習慣が身につけている」「中学校に進級し学習意欲が高まっている」ことなどが考えられます。ところが、中学校生活が始まり、時間的に余裕がなくなり、与えられる課題をこなすことが中心となり、自主的な家庭学習の機会が徐々に減少していくのではないかと考えられます。
- また、みえスタの結果から、次のような傾向があることが分かりました。
- 「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の質問に、肯定的に答えた1年生の正答率は、否定的に答えた1年生の正答率よりも、国語で+4.5ポイント、数学で+5.4ポイント、理科で+8.5ポイント高くなっています。2年生では、国語で+4.5ポイント、数学で+6.9ポイント、理科で+5.8ポイント高くなっています。
- つまり、「家で計画的に勉強することは学力向上につながる」ことが、数値からもわかります。
- また、全国学調とみえスタの結果から、次のような傾向もわかります。

【表8】		当てはまる	だいたい	あまり	当てはまらない
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる	1年	45.7	45.1	8.0	1.1
	2年	42.0	49.5	7.5	1.0
	3年	42.9/31.2	40.7/48.0	12.4/17.2	4.0/3.5

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか」の質問に、肯定的に答えた1年生の正答率は、否定的に答えた1年生の正答率よりも、国語で+7.9ポイント、数学で+12.4ポイント、理科で+8.9ポイント高くなっています。2年生では、国語で+9.2ポイント、数学で+22.0ポイント、理科で+11.0ポイント高くなっています。
- つまり、主体的に学ぶことが、学力向上に大きく影響があることが分かります。
- 子どもたちが生きていくこれからの社会は、与えられた課題をクリアするだけの人材が求められる社会ではありません。そのようなことはコンピュータや機械が行った方が、正確でミスがありませんし、人件費も節約できます。スーパーマーケットなどでセルフレジが増えてきているのもこの理由からでしょう。
- これからの社会を生きていく子どもたちに求められる資質や能力は、「自分自身で課題を見つけ、その課題解決に向けて強い意志を持ち、知恵や想像力を働かせ、また、仲間と協力し合い、解決していく力、または解決していこうとする力」です。
- そのような力を身に付けていくためにも、自分で計画を立てて学習を進めていくことや、何事も自分事として捉え、主体的に取り組むことが大切であると考えます。「興味や関心のある内容」「自分の課題を解決する内容」「自分の夢や目標を達成するための内容」などを、計画的に取り組めるよう促したり、授業改善を行ったりしていきます。ご家庭でも計画的な学習習慣が身につくよう、お話しください。

ICT活用、深い学びにつながる授業づくり

- 授業でPCやタブレット等のICT活用についての問いについてまとめました。週3回以上活用していると答えた生徒の割合です。【表9】

授業で、ICT機器を、どの程度使用しているか	70.6/50.9
授業中に自分で調べる場面で、ICT機器を、どの程度使っているか	35.0/37.2
学級の生徒と意見を交換する場面で、ICT機器を、どの程度使っているか	22.6/17.8
自分の考えをまとめ、発表する場面で、ICT機器を、どの程度使っているか	19.2/15.0

- 【表9】の回答から、本校のICTの活用状況は全国平均並み、あるいは少し進んでいると見ることができます。ただ、本市教育委員会からは、タブレット端末を文房具のように使えるようにしていきましょうと指示がきておりますが、正直なところ、まだその域には届いていません。今後一層校内でのICTに関わる研修を進めるとともに、校区の小学校と連携をとりながら、効果的な活用の在り方を探っていきたいと考えます。
- 下は「主体的な学びとなっているか」「対話的な学びとなっているか」についての質問をまとめました。「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的に答えた生徒の割合です。【表10】

授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ	83.6/79.2
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った	70.1/67.4
授業では、自分の思いや考えをもとに、作品や作文等新しいものを創り出す活動を行った	72.8/67.2
話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている	84.8/78.7
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている	74.0/74.7
あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている	86.4/76.8
学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいる	78.0/71.7
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる	91.6/85.5

- 【表10】の回答から、本校の授業は、生徒にとって主体的な学びとなっていると考えられます。前号の数学の授業に対する意識【表3】からも、問題意識を持って取り組んでいることがわかります。
- また、自分の考えを深めたり、広げたり、または学級の課題を解決したりすることに、学級やグループでの話し合い活動が有効であると回答している生徒が80%以上もいます。
- 「自尊感情・規範意識について」の項目(14号)でも述べますが、今の子どもたちを待ち受ける社会は「多様性の社会」です。いろいろな考え方や価値観を知り、理解し、尊重し合える社会を築いていくには、対話が必要です。これからも教育活動の中で、話し合いでの気づきや解決の機会を多数設けていきたいと考えています。